

西村副大臣ぶら下がり（夜第1回目）概要

日時：平成25年12月9日（月）19:32～36

場所：Grand Copthorne Waterfornt Hotel

【質疑応答】

（記者）今日はどのような進展があったか。また、一部報道で輸入の特別枠を設けるとい
う譲歩をしたという話があるが、朝の日米バイ会談ではどのような協議が行われたか。

（副大臣）今日は少人数グループの会合があり、私は金融サービスの会合に出た。日本も、
海外の投資などを含めて様々な金融があるので、投資の保護の観点も含めて発言をして、
一定の進展があったと思う。

午後は全体会で、懸案となっている知的財産をはじめとして4つの分野の議論をし
た。まだ、かなり知的財産は意見の隔たりがあるので、論点は整理されてきているが、
意見が集約されてという感じではない。それぞれの分野で、論点や対立点がより明確に
なってきたところである。

個別には、アメリカ、マレーシアと会談を行った。アメリカとは、なかなか溝は埋ま
っていない。平行線のままなので、引き続き協議を続けていくことになる。中身は申し
上げられない。お互い知恵を出してやろうということだが、隔たりは大きいものがある。
マレーシアとは、2国間の課題もいくつかあるし、今後の進め方も含めて意見交換した。

今日のこの後は夕食会で、昨日と違い簡易な食事になるようだが、その後も意見交換
をする。まだ、残りの分野がたくさんあるので、おそらく、明朝はまた8時からそれぞ
れの分野ごとに論点の整理と集約化に向けて議論していくことになる。ルールの方もまだ
対立点は多くあるので、どのようにこれから集約化していくかという点について、課題
はたくさん残っていると思う。

（記者）日米の協議は平行線ということだが、何かお互い譲り合ったところはあったのか。

また、明日は最終日だが、そこまでの段取りはどのようになると考えるか。

（副大臣）中身は申し上げられないが、双方努力をしている。我々については、越えられ
ない一線、譲れない一線は、国会決議があるので、これについては繰り返し何度も申し
上げているし、アメリカ側に柔軟な対応を強く求めてきているが、今のところ隔たりは
大きいものがある。

（記者）アメリカは柔軟な対応を見せそうか。始めの質問にもあるが、譲歩案について事
実関係を教えてほしい。

（副大臣）内容については申し上げられない。双方どういう内容で発言しているか、意見
を言っているかについても、申し上げられない。まだ、引き続き協議を続けたいと思う。

（記者）関税の協議について、明日までに決着に至る見通しは。

（副大臣）努力する。全力で頑張る。

（以上）